



学校だより

令和 2年 1月31日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-tyo.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-tyo.ed.jp

教育目標: 元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.504

いじめをなくすために

副校長 横尾 康幸

1月23日、練馬区立生涯学習センターで開かれた、練馬区いじめ防止実践事例発表会に参加してきました。そこでは、いじめ防止に向けての取組として、本年度は区内の全小中学生がいじめ防止ポスターを描いたのですが、その中から優秀と認められた作品の表彰や、区内の小中学校、保護者（PTA活動）、地域が行った取組の紹介が行われました。どのポスター、そして取組も、いじめ一掃に向けた様々な知恵が感じられ、本校に生かせるものがあると参考になりました。

今回の発表会で、私が一番心に残ったのは谷口雄鷹教育指導課長が発表会に参加した子供たちに向けて話した言葉です。

「いじめをなくすために、先生も、保護者も、地域の方々も皆一生懸命に取り組んでいます。でも、これだけではいじめはなくなりません。一番大切なことは、あなたたち子供たちが『いじめをなくそう』と声をかけ合うことです。」

いじめを本当になくすためには、肝心の子供たちが、いじめはいけないんだと心からそう思えるように育てていくことが重要です。そのために私たち大人は何をしていったらよいのでしょうか。私は、子供たちに「当事者意識」と「危機意識」をもたせていくことだと考えました。

当事者意識とは、いじめなんて自分には関係ない、他人事だと思わずに、自分の言動は相手を傷つけていないかと気にかけることです。そして、自分たちのグループにはいじめがないか、クラスは大丈夫かと気にかけていけることです。その際、大事なことは、相手の友達は一切どんな気持ちになっているか、その子の身になって考えられることです。

「いじる」という言葉を聞いたことがあると思います。軽い気持ちで相手をからかった

り、冷やかしたりすることです。

ある低学年の子から、みんなにからかわれて困っていると相談を受けたことがあります。話を聞いてみると、その子の苗字と別のある品物の名前とが似ていて、わざと苗字を変えて呼ばれるのだそうです。子供たちを集めて話を聞いたところ、呼んでいた方の子供たちは単純に面白いからふざけて言っていたようでした。次に、呼ばれている子供の話を聞いたのですが、そこで呼ばれている子の気持ちが分かり、自分たちはいけないことをしていたと気付いたようでした。これからは変な苗字で呼ばないと約束して謝り、話し合いは終わりました。

自分には悪気がなかったとしても、相手が嫌な気持ち、辛い気持ちになったなら、それはもう「いじる」ではなく、「いじめ」ととれます。子供たちには相手の人の気持ちを共感的に分かってあげられる想像力を様々な機会を通じて育てていきたいと思います。

危機意識とは、いじめが「された側」にも、そして「した側」にも、どれだけの悪影響を与えてしまうのか、それをしっかり考えられることです。

いじめが原因で不登校になってしまったというニュースがよく伝わってきます。そんなつもりではなかったと反省しても、取り返しがつきません。いじめはされた側はもちろんのこと、した側にも大変大きな心の傷をつくります。そういうことがきちんと分かっていたなら、いじめをする子供はきっといなくなるに違いありません。

最後に一つ。いじめのことに限らず、普段からどんな小さなことでも話せる関係を子供とつくっておきたいものです。そのためにも、まずは、子供の話を最後までしっかり聞いてあげること、受け止めてあげingことを日頃から大事にしていけたらと思います。

